

## 機能形態学2

責任者・コーディネーター	神経科学分野 駒野 宏人 教授		
担当講座・学科(分野)	神経科学分野、薬学教育学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 13.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

機能形態学では、薬理作用を理解する上で必要な薬物の標的となる生体の形態と機能（しくみと働き）に関わる基礎知識を習得する。これにより、薬理学、薬物治療学、医療薬学への学習基盤を確立し、臨床における疾病に対する薬物治療法の基礎を作る。機能形態学2では、血液・リンパ系、泌尿器系、内分泌系、生殖系、感覚器系、筋肉・骨格系の形態と機能を学ぶ。

### ・教育成果（アウトカム）

薬物が作用する生体のしくみ（形態）と働き（生理機能）を十分に理解することで、種々の疾病の病態や体内における薬物の作用を学習するための基礎的知識を修得できる。  
(ディプロマ・ポリシー：2,4)

### ・到達目標（SBO）

1. 血液系の構造と機能、リンパ系の構造と機能を理解し、説明できる。(415,416,424)
2. 尿器系の形態と尿生成機構を理解し、説明できる。(420)
3. 生殖器官を含む内分泌器官の形態とホルモンの合成・分泌、および作用を理解し、説明できる。(421,422,429)
4. 感覚器系の構造と機能を理解し、説明できる。(413,423)
5. 筋肉系構造と機能、骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。(411,412)

### ・講義日程

(矢) 東 102 1-B 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
5/20	月	3	神経科学分野	駒野 宏人 教授	内分泌系器官の構造と機能 1. 甲状腺、副腎の形態とホルモンの合成・分泌、および作用を理解し、説明できる。 <b>【対話・議論型授業】</b> 事後学習：授業資料を復習すること。

5/21	火	4	神経科学分野	藤田 融 助教	血液・リンパ系の構造と機能 1. 血液系の構造と機能、造血機構、リンパ系の構造と機能を理解し、説明できる。 事後学習：授業資料を復習すること。
5/27	月	3	神経科学分野	藤田 融 助教	血液・リンパ系の構造と機能 1. 血液系の構造と機能、造血機構、リンパ系の構造と機能を理解し、説明できる。 事後学習：授業資料を復習すること。
5/29	水	4	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	泌尿器系の構造と機能 1. 泌尿器系器官の形態と尿生成機構を理解し、説明できる。 事前学習：薬学生物1（機能形態）の泌尿器の授業資料を確認しておくこと。 事後学習：授業資料を復習し、練習問題を再度解くこと。
6/3	月	3	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	泌尿器系の構造と機能 1. 泌尿器系器官の形態と尿生成機構を理解し、説明できる。 事前学習：薬学生物1（機能形態）の泌尿器の授業資料を確認しておくこと。 事後学習：授業資料を復習し、練習問題を再度解くこと。
6/10	月	3	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	生殖系の構造と機能 1. 生殖系器官の構造と機能、および生殖系ホルモンの作用を理解し、説明できる。 事前学習：薬学生物1（機能形態）のホルモン関連の授業資料を確認しておくこと。 事後学習：授業資料を復習し、練習問題を再度解くこと。
6/11	火	4	神経科学分野	藤田 融 助教	筋肉・骨格系の構造と機能 1. 筋肉の構造・収縮機構、骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。 事後学習：授業資料を復習すること。
6/17	月	3	神経科学分野	駒野 宏人 教授	感覚器系の構造と機能 1. 皮膚の構造と機能、体性感覚のしくみを理解し、説明できる。 【対話・議論型授業】 事後学習：授業資料を復習すること。
6/18	火	3	神経科学分野	駒野 宏人 教授	感覚器系の構造と機能 1. 皮膚の構造と機能、体性感覚のしくみを理解し、説明できる。 【対話・議論型授業】 事後学習：授業資料を復習すること。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	機能形態学 改訂第4版	櫻田 忍、櫻田 司	南江堂	2018
教	ぜんぶわかる人体解剖図	坂井 建雄、橋本 尚詞	成美堂出版	2010

・成績評価方法

定期試験（90%）、レポート（10%）を総合的に評価する。

・特記事項・その他

予習・復習

シラバスを参考にして教科書を予習しておくこと。講義で用いたプリントおよび教科書を用いて復習しておくこと。授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。以下のポイントを重点的に予習すること。

1. 血球の分類と機能
2. 腎臓の構造と機能
3. 排卵周期のホルモン調節
4. 眼球の構造と機能
5. 中耳と内耳の構造と機能
6. 皮膚の構造および感覚機能
7. 筋肉の構造と収縮機構
8. 骨の構造とカルシウム代謝

レポート等の課題に対するフィードバック

授業では毎回レポートの提出が必要である。チェックして返却し、解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	コンピューターで作成した講義資料を講義室のプロジェクターで映写し、講義に使用する。